

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

安達 明久



日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

目次

教育の責任	1
1. 何を担当しているのか.....	1
2. 担当科目	1
教育の理念	2
1. 「グローバルでかつローカルな視点を持ったビジネスエリート」を目指した教育	2
2. 3つのコンピテンシー「課題解決力、専門的学識技能、コミュニケーション能力」の涵養を意識した授業の設計、教育方法等の工夫	2
教育の方法	3
1. ディプロマ・ポリシーの「教育実施方針 D 学修方法」に示されているアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れた授業	3
2. 双方向型授業を意識した授業の展開	3
教育の成果 および 今後の目標.....	3
参考資料	4

教育の責任

1. 何を担当しているのか

2025年4月1日に本学仙台キャンパスに着任した者である。2025年度においては、主に仙台キャンパスの1年生・2年生向けに「現代ビジネスモデル」における専門科目等を担当している。担当授業においては、本学の教育方針および教育目標「グローバルでかつローカルな視点を持ったビジネスエリートを育てる」、並びに本学ディプロマポリシーにおける3つのコンピテンシー「課題解決力、専門的学識技能、コミュニケーション能力」の涵養を目標とする授業の設計、教育方法等の工夫を行っている。

上記の本学の教育方針やコンピテンシー等については、前任大学とも多くが共通しており、後述する私の教育理念や教育方法についても、前任大学と本学において基本的に同一であり大きく変更した点は存在しない。

2. 担当科目

現在（2025年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。いずれも、本学のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）に基づいて編成された科目である。

科目名	対象 学年	受講 人数※	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
(仙台)ファイナンス概論	2-4	3	講義	選択	専門科目
(つくば)ファイナンス概論	2-4	31	〃	〃	〃
(仙台)現代ビジネス入門	1-4	未定	〃	選必	モデル入門科目
(仙台)マーケティング A	2-4	未定	〃	選択	専門科目

※受講人数は過去の実績による平均受講人数

教育の理念

1. 「グローバルでかつローカルな視点を持ったビジネスエリート」を目指した

教育

本学は、「解なき問いを思考する主体的で対話的な深い学びの場を提供することによって、日本語と国際共通語の英語双方で学生の思考を鍛え、豊かな人間力と、高いコンピテンシーを磨き、グローバルでかつローカルな視点を持ったビジネスエリートを育てる」ことを教育理念・目標としている。本学での教育にあたっては、この教育理念・目標の実現のため必要となる3つのコンピテンシー「課題解決力、専門的学識技能、コミュニケーション能力」の涵養を意図する授業の設計、教育方法等の工夫を行っている。

2. 3つのコンピテンシー「課題解決力、専門的学識技能、コミュニケーション能力」の涵養を意識した授業の設計、教育方法等の工夫

個別の授業の実施にあたっては、本学がその教育理念・目標の達成のために設定している3つのコンピテンシー「課題解決力、専門的学識技能、コミュニケーション能力」の涵養を意識した授業の設計、教育方法等の工夫を行っている。

具体的には、「専門的学識技能」の涵養については、経営学の諸理論や基礎的専門用語の習得にあたり、通常の練習問題や小テストの実施に加えて、極力現実のビジネス社会の実例の紹介、解説を採り入れ生きたビジネスに触れる機会を提供している。また、「課題解決」「コミュニケーション能力」の涵養にあたっては、毎回授業において「実際事例を基にしたケース課題」を提示し、毎回授業の主題に基づいて、数名のグループによる関連情報収集・討議・発表・質疑を行う時間を設けた授業を極力展開するよう努めている。

教育の方法

1. ディプロマ・ポリシーの「教育実施方針 D 学修方法」に示されているアク

ティブラーニングの手法を積極的に取り入れた授業

本学が定める3つのコンピテンシー「課題解決力、専門的学識技能、コミュニケーション能力」の涵養にあたっては、前述したような授業の設計、教育方法等の工夫を行っているが、その際、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業運営を行うことに努めている。

具体的には、①毎回授業の実施にあたり1週間前に次回授業に関する「予習資料と課題」を提示し、受講生が事前学習を行うことを前提とする授業を実施、②授業において提示する具体事例や討議課題に関連する情報については、学生各人が持参したタブレットを利用しWEB検索によって必要情報を収集しグループ間で共有し討議することを推奨、③授業中に受講生が積極的に質問・意見提示・発表等を行うことを推奨し、当該発表等について点数化を行い期末成績評価に一定割合で加算することを事前に学生に周知するなどの工夫を行っている。

2. 双方向型授業を意識した授業の展開

アクティブラーニング型の授業は、授業参加意欲に欠ける学生や公開の場での発言等に抵抗感を感じる学生においては、講義中心型授業に比して学習効果が伸び悩むとい課題も一方で指摘されている。この様なアクティブラーニング型授業の問題点に対処するべく、ICTを活用した双方向型の授業運営を行うことを意識している。

具体的には、①GoogleMeetのチャット機能を活用し、挙手による公開の場での質問・発言ではなく、WEB上で教員と直接文字ベースが気軽に質問等ができるようにし授業中に教員が回答する仕組みを提供、また、②GoogleFormを活用し、毎回の授業に対し、授業終了後学生からの評価や改善要望を受け付けるようにしているほか、授業内容に関する質問や不明点の追加解説の要望も学生が自由に表明・要望できるようにし、次回授業冒頭で解説等を行う仕組みを構築している。

教育の成果 および 今後の目標

2025年4月に本学に着任したばかりであり、教育の成果については現時点では具体的に記載する段階には至っていない。なお、前任大学での学生による授業評価の結果を記載すれば、以下の通りである。また、前任大学における学生の成果や受賞歴は下記の通りである。

① 前任大学における学生による授業評価（2024年度）： 講義型4科目平均点 4.45

* 1～5点の5段階評価、学部ゼミナールや大学院担当科目を除く。

② 前任大学における学生の成果物や受賞歴（2022年度～2024年度）

（学生が執筆した卒業論文の大学紀要掲載） 2024年度1件

（学生による論文等の学会発表）

2024年度 地域活性学会1件 — 奨励賞受賞

2023 年度 国際ビジネス研究学会 1 件

2022 年度 国際ビジネス研究学会 1 件

(学生による研究活動の对外発表)

2024 年 2 月 柏崎商工会議所主催柏崎に関する研究発表会 優秀賞受賞 1 件

2024 年 1 2 月 新潟産業大学柏崎研究所主催柏崎学シンポジウム学生発表 1 件

(学生によるビジネスプランの作成発表) 審査委員：日本政策金融公庫新潟支店等

2022 年度～2024 年度 計 1 3 件 ・ ・ ・ 「ビジネス演習」における作成発表

今後の目標は、下記の諸点である。

- ① 本学において新規に担当することとなった科目への対応。具体的には、「ファイナンス概論」「マーケティング A」などの科目について、アクティブ型を前提とする新たな授業コンテンツと運営方法を準備開発すること。また、同様に新規に担当することとなった筑波キャンパス向けの「ファイナンス概論」など、遠隔授業におけるアクティブ型授業のコンテンツと運営方法について工夫を行うことの 2 点である。
- ② GoogleMeet を活用し、対面式授業においても「双方向型」の授業を展開すること。
- ③ 非英語圏出身の留学生にも分かり易い授業内容・運営方式を工夫すること。なお、その際日本人学生も同一内容で受講していることを条件とする点で特別の工夫が必要である。

参考資料

Google Classroom 「ファイナンス概論」 仙台・つくば共通

(URL : <https://classroom.google.com/c/NzUzMjgwMDIzMDM1>)

*授業で使用した講義資料等 : 全て上記の GoogleClassroom の「授業」に掲載

<https://www.nsu.ac.jp/26037/> : 2024 年度 地域活性学会 1 件 — 奨励賞受賞

<https://www.nsu.ac.jp/26945/> : 新潟産業大学柏崎研究所主催柏崎学シンポジウム学生発表

<https://kashiwazakicci.or.jp/%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E6%9F%8F%E5%B4%8E%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%99%BA%E8%A1%A8%E3%80%90%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E3%80%91-copy/> : 柏崎商工会議所主催柏崎に関する研究発表会 優秀賞受賞

<https://www.nsu.ac.jp/research/study/bulletin/> : 2024 年度 学生卒業論文の大学紀要掲載

https://www.ibi-japan.co.jp/jaibs/html/convention/2023_hosei_unv/2023_convension_program.pdf

: 2023 年度 国際ビジネス研究学会学生発表 1 件

<https://www.ibi->

[japan.co.jp/jaibs/html/convention/2022_kyusyu_unv/2022_conference_program.pdf](https://www.ibi-japan.co.jp/jaibs/html/convention/2022_kyusyu_unv/2022_conference_program.pdf)

: 2022 年度 国際ビジネス研究学会学生発表 1 件